

学術フォーラムの概要について（事後報告）

1 名称：メディアが促す人と科学の調和ーコロナ収束後の公共圏を考えるー

2 日本学術会議以外の共同主催団体等：
なし

3 開催日時：令和2年7月16日（木） 13時00分～17時00分

4 開催場所：オンライン開催

5 開催趣旨：

日本学術会議の科学と社会委員会メディア懇談分科会は、これまで科学に関するメディアの役割と現状を議論してきた。これらの議論を踏まえ、より多くの関係者とこれからの公共圏を考える公開討論を実施する。一般向け科学雑誌が次々と撤退する中、一般市民はどのように科学の情報を得ているのか、また政府とメディアと大学等の関係は時代とともにどのように変化し、政策に科学情報はどのように反映されているのか、様々な立場の科学関係者が議論する。特に、海外メディアの視点とSNSに代表されるインターネット情報に焦点をあてながら、新型コロナウイルス収束後の公共圏の在り方を考える。

6 参加人数：

講演者等：13名

その他の参加者：220名以上（YouTube 最大同時接続数：213、再生回数：645）

7 特記事項：

新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮し、一般参加者は YouTube によるオンライン配信への参加、登壇者は8名が学術会議にて、4名が Webex で参加した。

Science 誌記者、The Wall Street Journal 東京支局長、脚本家を迎え、学術会議会員や連携会員と科学とメディアのあり方について議論した。社会がますます科学的な信頼ある情報を求め、あらゆる情報がデジタルにシフトする中、技術的には容易に操作できますが社会に浸透するフェイク情報への対応とともに、市民が科学に参加することが大きな課題であり、科学を健全な方向に導くためには多様な視座で科学を社会に開き、新たな民主主義が必要であるという議論をした。

このフォーラムの結果は、サイエンスポータル及び Yahoo ニュースにて広く周知された。